

=====

** 日本学術会議ニュース・メール ** No.516** 2015/10/23

=====

+++++

◇フューチャー・アース日本会議期間中（11月14日～23日）の
シンポジウムのお知らせ（計4件）

◇日本学術会議主催学術フォーラム「防災学術連携体の設立と東日本大震災の
総合対応の継承」の開催について（ご案内）

◇日本への国際会議誘致に関するアンケート調査（観光庁からのお知らせ）

◇第15回グリーン・サステイナブル ケミストリー賞について（ご案内）

+++++

■-----

フューチャー・アース日本会議期間中（11月14日～23日）の
シンポジウムのお知らせ（計4件）

-----■

(1) サイエンスアゴラ「フューチャー・アース ～持続可能な地球社会に向けて～」

地球規模の諸問題に関する様々な国際共同研究を統合し、地球の変動を包括的に理解す

るとともに、これらの研究成果を問題解決に活用し、社会転換に結びつけるための研究

を行う国際的イニシアティブである「フューチャー・アース」。

その事務局長が来日し、フューチャー・アースの目的や特徴についてお話し、メディア

ラボがプレゼンテーションを行います。

持続可能な開発のために、研究に何が求められているのか、どうすれば研究を社会に結び
つけることができるのか、フロア全体で議論します。

日時：2015年11月14日（土）13：00-17：00(受付12：30～13：00)

場所：日本科学未来館 イノベーションホール

<http://www.miraikan.jst.go.jp/guide/route/>

主催：日本学術会議 フューチャーアースの推進に関する委員会

共催：JST、総合地球環境学研究所

定員：80名

言語：英語（同時通訳あり）

参加費：無料

セッションの詳細については下記をご覧ください。

http://www.chikyu.ac.jp/future_earth/events/events_20151114.pdf

http://www.jst.go.jp/csc/scienceagora/program/booth/ab_101/

参加申し込みは下記まで、お名前、ご所属、メールアドレスをご連絡ください。

(11月10日(火) 〆切)

総合地球環境学研究所 Future Earth 推進室

tel: 075-707-2403

e-mail: FutureEarth@chikyu.ac.jp

(2) 生命を育む地球環境の変動予測と適応—我が国におけるIGBP25年間の歩み

我が国におけるIGBP(地球圏—生物圏国際協同研究計画)、及び傘下の8つのコア・プロジェクトに関する研究活動を総括し、フューチャー・アースを含め、将来へのさらなる発展を目指した議論を行うための公開シンポジウムを開催いたします。

日 時： 2015年11月15日(日) 9:00-12:00 ※開場 8:30

場 所： 政策研究大学院大学 (東京都港区六本木7-22-1) 1階 会議室 1A・1B

<http://www.grips.ac.jp/about/access/>

主 催： 日本学術会議 環境学委員会

・地球惑星科学委員会合同IGBP・WCRP・DIVERSITAS(IWD)合同分科会

共 催： 日本学術会議 フューチャー・アースの推進に関する委員会

後 援： 日本地球惑星科学連合

定 員： 100名

言 語： 日本語

参加費： 無料

プログラム等の詳細は下記HPに記載しております。

また、事前参加登録につきましても下記HPにて受け付けております。

<http://mits10.aori.u-tokyo.ac.jp/kokusai/igbp2015/>

お問い合わせ先：

植松光夫教授（日本学術会議特任連携会員）

東京大学大気海洋研究所

電子メール：uematsu@aori.u-tokyo.ac.jp

（3）持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2015

今年度は「フューチャー・アース」をテーマとして、国内外の研究者・メディア関係者による、基調講演・パネルディスカッションを行う予定です。

日 時： 2015 年 11 月 15 日（日） 13:30-18:00 ※開場 12:45

場 所：日本学術会議講堂

主 催：日本学術会議

（協力委員会：フューチャー・アースの推進に関する委員会、環境学委員会）

共 催： Future Earth、東京大学サステナビリティ学連携研究機構、

総合地球環境学研究所、国際連合大学（予定）、国立環境研究所（予定）

定 員： 200 名

言 語： 日本語・英語（同時通訳あり）

参加費：無料

プログラム等の詳細は下記HPに記載しております。

また、事前参加登録につきましても下記HPにて受け付けております。

http://www.pco-prime.com/Science_and_Technology_for_Sustainability2015/index.html

お問い合わせ先：

持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2015 事務局

Tel: 03-6277-0095

E-mail: Science_and_Technology_for_Sustainability2015@pco-prime.com

（4）フューチャー・アース - 新たな国際プラットフォームで社会と科学をつなぐ

International Symposium on Sustainability Science Future Earth - a new platform promoting science for society

今年度は「フューチャー・アース」をテーマとして、

国内外の研究者、また企業からも参加をいただき、各種講演・パネルディスカッションや、双方対話式のセッションなども行う予定です。

日 時： 2015 年 11 月 21 日（土） 9:30-16:00（開場 9:00）

場 所： 東京大学 本郷キャンパス内 安田講堂

主 催：一般社団法人サステナビリティ・サイエンス・コンソーシアム(SSC)

共 催：東京大学サステナビリティ学連携研究機構(IR3S)、Future Earth、
国際連合大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS)、
東京大学大学院新領域創成科学研究科サステナビリティ学グローバル
リーダー養成大学院プログラム (GPSS-GLI)、持続可能な開発ソリュー
ション・ネットワーク・ジャパン (SDSN Japan))

定 員： 900 名

言 語： 日本語・英語（同時通訳あり）

参加費： 無料

プログラム等の詳細は下記HPに記載しております。

また、事前参加登録につきましても下記HPにて受け付けております。

<http://www.pco-prime.com/2015isssf/>

お問い合わせ先

「SSC シンポジウム」事務局

株式会社プライムインターナショナル内

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿 1-13-10-601

E-mail: 2015isssf_secretariat@pco-prime.com

[Tel:03-6277-0117](tel:03-6277-0117) Fax:03-6277-0118

■-----
日本学術会議主催学術フォーラム「防災学術連携体の設立と東日本大震災の
総合対応の継承」の開催について（ご案内）
-----■

・日時 平成 28 年 1 月 9 日（土） 13:00~17:30

・場所 日本学術会議講堂

・開催趣旨

日本の防災・減災に関わる30の学会の代表が集まり、日本学術会議と連携し、東日本大震災に対する反省と今後の抜本的な見直しに際し、本質的な議論を展開する連続シンポジウム「巨大災害から生命と国土を護る-30学会からの発信」を行ってきた。理学・工学の関連分野に加え、社会経済や医学を含めた幅広い分野の研究者が、分野の壁を越えて議論し、2012年5月に政府に向けた共同声明、2014年11月に国際社会に向けた共同声明と30学会の取組み紹介の冊子を発出するなど、様々な成果をあげてきた。その最終回（11回）として、学術フォーラムを開催し、東日本大震災後の約5年間を振り返り、大震災から得られた教訓とその継承について議論する。

このフォーラムをもって「東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会」は終了するが、後継組織として「防災学術連携体」(Japan Academic Network for Disaster Reduction)を設立し、防災・減災の全般を対象に、より広い分野の研究者の参画を得ながら、今後の大災害等の緊急事態にも対応できる継続性のある学会ネットワークを育てていく。

日本学術会議は平成26年2月に「緊急事態における日本学術会議の活動に関する指針」を制定し、平成27年7月に「防災減災・災害復興に関する学術連携委員会」を設置した。防災学術連携体はこの委員会と密接に連携して活動する。本フォーラムでは、防災学術連携体に期待される役割についても議論する。

詳細は「防災学術連携体」のホームページ <http://janet-dr.com> をご覧下さい。

・次第

13:00 挨拶・趣旨説明

司会：目黒公郎（日本学術会議連携会員、東京大学教授）

挨拶：大西 隆（日本学術会議会長、豊橋技術科学大学学長）

挨拶：加藤久喜（内閣府防災担当政策統括官）

13:15 学協会連絡会のこれまでの活動と成果について

依田照彦（日本学術会議会員、土木工学・建築学委員長、早稲田大学教授）

13:30 学会連携の取組み事例の発表

集団災害医学会 20周年総会 学協会連絡会との連携 PD

東日本大震災合同調査報告「原子力編」刊行記念 合同報告会

代表発表：川島一彦（東京工業大学名誉教授）

地球惑星科学委員会と土木工学・建築学委員会との連携

「地質地盤情報の整備・活用と法整備」シンポジウム

13:45 ディスカッション1「東日本大震災復興の課題と今後の方向」

テーマ(1)「震災・復興に役立った知見、役立たなかった知見、役立てたかった知見」

テーマ(2)「どのような体制があれば良かったか、震災の現場ではどのような研究が望まれていたか、学会連携に期待することは何か」

パネリスト：東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会/各学会代表 15 名

吉野 博（日本学術会議会員、東北大学教授）、

浅見泰司（日本学術会議連携会員、東京大学教授）

コーディネータ：米田雅子（日本学術会議連携会員、慶応義塾大学特任教授）

15:00-15:15 休憩

15:15 ディスカッション2「東日本大震災に学んだ防災・減災と今後の方向」

テーマ(1)「防災・減災に役立った知見、役立たなかった知見、役立てたかった知見」

テーマ(2)「どのような体制があれば良かったか、研究成果に社会を動かす説得力があったか、学会連携に期待することは何か」

パネリスト：東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会/各学会代表 15 名

小松利光（日本学術会議会員、九州大学教授）、

小池俊雄（日本学術会議連携会員、東京大学教授）

コーディネータ：米田雅子（前掲）

16:30 「防災学術連携体」設立の報告

和田 章（日本学術会議会員、東京工業大学名誉教授）

16:45 新規参加学会の取組み発表

17:25 閉会挨拶 田村和夫（日本学術会議連携会員、千葉工業大学教授）

(参加費 無料)

定員：先着340名

お申込み：下記サイトの申込フォームよりお申込ください。

<http://janet-dr.com>

定員になり次第締め切らせて頂きますので、御了承ください。

インターネットで実況中継 (Ustream)：

当日、ホームページ <http://janet-dr.com> を御覧ください。

日本への国際会議誘致に関するアンケート調査
(観光庁からのお知らせ)

観光庁では、国際会議の誘致・開催の国際競争力強化を検討するうえで、大学関係者の方々や研究者の皆様のニーズ把握のためのアンケート調査を、今回行わせていただきたいと思っております。

本アンケートは、日本における国際会議の誘致力向上に向けた施策の参考とすることを目的に実施いたします。

学術振興のため、ぜひ御協力をお願いいたします。

ご回答は下記の URL からお願いいたします。

<https://truenavi.net/enq/convention.html>

回答受付期間：2015年10月23日～11月8日

本調査は、観光庁より委託を受けた下記の機関が事務処理を実施しています。

本調査の内容及びご回答方法等についての疑問点、ご質問等がございましたら、下記担当者までお問い合わせください。

(株)野村総合研究所 社会システムコンサルティング部 八亀、溝口、岡村

TEL: 03-5533-2203、FAX: 03-5533-2900

第 15 回グリーン・サステイナブル ケミストリー賞について（ご案内）

第 15 回グリーン・サステイナブル ケミストリー賞について、推薦依頼がありましたためお知らせいたします。会員・連携会員の皆様をご推薦できる賞ですので、同賞にふさわしいと考えられる研究者がいらっしゃいましたら、ご推薦をお願いします。推薦要領につきましては、以下のホームページでご確認ください。

○グリーン・サステイナブル ケミストリー賞：人と環境にやさしく、持続可能な社会の発展を支える化学及び化学技術であるグリーン・サステイナブル ケミストリーの推進に貢献した業績を顕彰する賞です。

※切は平成 27 年（2015 年）12 月 8 日（火）。

http://www.jaci.or.jp/gscn/page_03.html

★-----☆

日本学術会議では、Twitter を用いて情報を発信しております。

アカウントは、@scj_info です。

日本学術会議広報の Twitter のページはこちらから

http://twitter.com/scj_info

学術情報誌『学術の動向』最新号はこちらから

<http://www.h4.dion.ne.jp/~jssf/text/doukousp/index.html>

=====

日本学術会議ニュースメールは転載は自由ですので、関係団体の学術誌等への転載や関係団体の構成員への転送等をしていただき、より多くの方にお読みいただけるようにお取り計らいください。

本メールは、配信専用のアドレスで配信されており返信できませんので、あらかじめご了承ください。本メールに関するお問い合わせは、下記の URL に連絡先の記載がありますので、そちらからお願いいたします。

=====

発行：日本学術会議事務局 <http://www.scj.go.jp/>

〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34